

# **「燃料アンモニアサプライチェーンの構築」 プロジェクトにおける 研究開発・社会実装計画の改訂について**

**2024年7月5日**

**資源エネルギー庁**

- GI基金事業（燃料アンモニアサプライチェーンの構築）では、IHIが2 MW級アンモニア専焼ガスタービンによる実証試験を24年～25年に実施することとしている。
- さらに、本事業の研究開発・社会実装計画では、「技術の社会実装や海外への展開を加速させるため、万博等の利用について、並行して検討を行う」こととしている。
- こうしたことから、本事業の一環として、大阪・関西万博において、グリーンイノベーション基金のアンモニア専焼試験のグリーンな発電による電力をクレジット化し、万博会場に価値を提供することにより、日本の技術力と燃料アンモニアの意義について世界に発信することについて、検討・協議を進めてきた。
- このような取り組みを行うことは、市場獲得や海外展開、さらには欧米を含む世界の燃料アンモニアに対する理解促進に資すると考える。
- ついては、GI基金により、グリーンなアンモニアによる発電実証を行い、大阪・関西万博に非化石価値を提供するとともに、このような計画を、社会実装計画にも記載すべく改訂を行うこととする。

- 研究開発・社会実装計画に以下の2点を追記する。
  - 社会実装に向けたその他の取り組みについて、「さらに、2025年の大阪・関西万博において、本プロジェクトの中間的な成果として、クリーンなアンモニアを利用した実証実験を行うことによる会場の電力の脱炭素化への貢献や、燃料アンモニアの普及啓発を通じ、世界への発信を行う等の取り組みを行う。」との文言を追記する。
  - 予算について、（研究開発内容②）ガスタービンにおけるアンモニア専焼技術の開発・実証の項目において、  
**「【社会実装に向けた支援】**  
**予算額：上限8億円（研究開発内容②の予算額に含む）**  
**予算根拠：本プロジェクトにおいて、クリーンなアンモニアを活用した発電電力の非化石価値を大阪・関西万博で利活用することを想定し、その際のクリーンなアンモニア想定利用量の見積もり等に基づき試算。」**との文言を追記する。